

三重PECS研究会 第14回研修会報告

～正会員、準会員のグループに分かれての研修～

日時	2016年9月4日(日)13:00～16:00
場所	三重県立稲葉特別支援学校 プレイルーム 及び 小学部教室
参加人数	39名
内容	<p>1. 正会員、準会員に分かれてのグループ研修</p> <p>【正会員グループ】</p> <p>(1)自己紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 支援学校の教員と保護者の方のグループ。 <p>(2)9つの重要なコミュニケーションスキル、PECSを一日にどう組み込むか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日ごろの悩みや指導で行き詰っている事を出していただき、門先生にご助言いただいた。 ・ 『「痛い」や「かゆい」などの体調をカードで教えたい』、『担任の先生へのPECSの伝え方』、『ipadへの移行について』などの質問がありました。 ・ 門先生から、「9つのコミュニケーションスキルは非常に大切だ。このスキルが使えないと別の方法(パニックや問題行動)で伝えようとする」と教えていただいた。 <p>(3)正会員グループデモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育所のお子さん。強化子はグミ、ジュース。コミュニケーションパートナーは母親で指導開始。初めはコミュニケーションブックで「グミ」+「下さい」で要求。2・3回繰り返した所でipadへ移行。 ・ 強化子はグミ、コミュニケーションパートナーは母親、プロンプターは門先生。2・3回繰り返すとやり方を覚えほとんどプロンプターなしで要求する事ができるようになった。 <hr/> <p>【準会員グループ】</p> <p>(1)PECS ガイダンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「PECSとは」、「PECSの6つの指導ステップ」、「9つの重要なコミュニケーションスキル」、「PECSの有効性」、「強化子の大切さとアセスメント」の話を事務局の石井より説明させていただいた。 ・ 「PECSの有効性」は、最初から自発的コミュニケーションをめざす、実用的コミュニケーションを教える、本人にプラスになる要求から教える(モチベーション向上)、エラーレス学習(意欲低下しにくい)、最初から般化を教える、手助けを減らしていくので自立度が向上等をお伝えした。 <p>(2)デモ</p> <p>(準会員グループ1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学生のお子さん。PECSは、ご家庭でも取り組んでみえる。強化子は、お菓子で行った。(好きな物としては、パズル、レゴブロックがあったが、すぐには準備ができなかったため、お菓子のみで行った。) ・ 久賀谷先生がコミュニケーションパートナー、母親がプロンプター。うまいぼうで指導開始。 ・ ご家庭でもやっているの、カードを渡すフェーズⅠはとてもスムーズ。ただ、プロンプターは、声掛けをしないようにということを踏まえ、コミュニケーションパートナーを、母親、父親とチェンジし、般化を促す。(人や場所はできるだけ早く代わる方が良い、) ・ 続いて、コミュニケーションパートナーを久賀谷先生に戻して、フェーズⅡへ。少しずつ距離を取っていった。そこで、「待つ」という交渉を行うこともできた。

- ・ お菓子ばかりだったので、喉が渴いて手が止まってしまった。そこで、いつも使っているBOOKから、お茶カードを渡し要求することができた。

(準会員グループ2)

- ・ 3歳児のお子さん。PECSは初めて。強化子は、ぶどう、さくらんぼ、プラレール、恐竜等。
- ・ 母親がコミュニケーションパートナー、石井がプロンプター。ぶどうで指導開始。
- ・ 初めは、ぶどうに手を伸ばす。すぐにプロンプトをすると、自分でカードを渡そうとした。2 施行目は自分でカードを取り、動きがとまったのでプロンプト。5 施行目くらいから自分でカードを渡せるようになった。
- ・ 途中でコミュニケーションパートナーとプロンプターの役割を交代した。変わらず、要求できた。フェイズ 2 も導入した。2m離れた人にも要求できた。
- ・ ぶどうがなくなったので、プラレールで再開した。30くらいアイテムがあるが、1 試行に3つくらいのアイテムを渡した。全部手に入るまで絵カードの要求を繰り返した。



事前聞き取りで用意した、準会員グループデモで使用する強化子。

(3)グループ協議

(準会員グループ1)

- ・ 小学校や支援学校の先生、福祉関係者、保護者(大多数)によるグループ。
- ・ 参加者からは、「他害や自傷が激しく、コミュニケーションツールを増やしたい」、「待つ、やめての指示が理解しにくい」、「気持ちや感情を伝えるカードを伝えるようにしたい」等のお話があった。
- ・ 助言者からは、「コミュニケーションパートナーは、言語プロンプトをしない」、「自発を促さないと指示待ちになる」、「まってカードは 0.5 秒から始める。徐々に時間を増やしていく」、「タイムタイマーやキッチンタイマー等で待つを学習する時は、楽しいことを待つ経験をすると良い」等のご助言をいただいた。

(準会員グループ2)

- ・ 小学校や支援学校の先生、福祉関係者、保護者によるグループ。
- ・ ほぼ全員が「PECS のことがもっと知りたい」という理由で研修会に参加。
- ・ 参加者からの質問は、「子どもが指示待ち。主体的に伝えるが、返事がくるまで待つ。強化子がお菓子しかないが、どうしたらいい。」、「何かをさせようとする则自分の世界に入る、嫌がって寝がう等にどう対応したらよいか」が出された。



	<p>2. グループ発表</p> <p>3つのグループの発表をしていただいた。各グループから出された質問に助言者の先生から回答をいただいた。</p> <p>(Q1) 指示待ち。強化子がお菓子くらいしか広がらない。</p> <p>(A1) 行動を分析することが大切。指示を要求することもある。お菓子もいろいろな種類があるので、ただ知らないだけかもしれない。アセスメントをしながら進めていく。</p> <p>(Q2)「イヤだ」と拒否したり、自分の世界に入ったりする。どう切り替えをしたらいいのか。</p> <p>(A2)活動内容に興味を持っていますか。やりたいことやできること、できないことを探る。一つひとつの活動の意味をわかりやすく伝えていく。コミュニケーションの理解の学習にもつながる。スケジュールもわかっているかどうか重要で、絵カードでも具体物でもわかっているものを使う。</p> <p>(Q3)ことばが出そうででない。</p> <p>(A3)PECS は、発語が目的でない。自発的なコミュニケーションが大切。フェイズ 4 で文を読み上げる段階で、ことばが出てくることもある。でも、ことばを促すことはしない。</p>
	<p>3. 助言者より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今までの経験からも一度ワークショップを受講されてもあまりマニュアルを読まれていないことがよくわかる。フェイズ6までだけでなく、重要なコミュニケーションスキルのこともマニュアルにある。表出だけでなく、理解の内容もある。マニュアルをしっかりと読んでいただきたい。 ・ PECS の絵カードは、補助代替コミュニケーション。聴覚障害には手話・補聴器、視覚障害には眼鏡等、ことばでうまく意思表示できない人々にとって、絵カードは補助代替コミュニケーション。これは、合理的配慮でもあるので取り入れ、支援しなければいけない。学校全体で研修でとりあげて進めていく必要がある。 ・ フェイズ1で自発的表出ができ始めたら、「交渉」の学習を行っていく。デモでは、「座って」の指示理解の課題にとりくんだ。「表出」の学習と同時に「理解」の学習にもとりくんでいく。 ・ 自発的なコミュニケーション学習として、PECS はとても有効な手段。学習が進む子は、文字や ipad も使用していけば良い。ただ、その移行は、本人が決めることが重要。 ・ 各々のコミュニケーションの取り方をアセスメントすることも大切。
	<p>4. 情報交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 西陣ピールプロジェクトへのご支援のお願い。→ 添付チラシをご参照 《チラシはこちらから》 ・ その他、研修会、講演会のアナウンス。
<p>ポイント</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ マニュアルをしっかりと、何度も読もう。 ○ 強化子アセスメントの重要性。



Nishijin Ale Project

自閉症の人とともに 西陣麦酒を醸造・販売するプロジェクト

自閉症の人は、心理発達の中で著しくメリハリが効いている人たちです。自閉症の人への支援を天職と考えている私たちにとって、自閉症の人のメリではなく、そのハリを活かせる職場を作ることは重要な使命のひとつです。そこで真っ先に浮かんだのはクラフト・ビール（地ビール）の醸造所です。丁寧な温度管理、上質の味や香りの追及、ルーチンの反復作業などに自閉症の人のハリを活かせるはず。京都西陣の地に西陣麦酒計画が呱呱の声をあげ、2016年、歩み始めます。

■ 西陣麦酒計画 発起人

児童精神科医	門 眞一郎
特定非営利活動法人自閉症eサービス	理事長 中山 清司
特定非営利活動法人HEROES	理事長 松尾 浩久
株式会社エンカレッジ	代表取締役 窪 貴志
株式会社エンカレッジ	取締役 高橋 亜希子
NPO法人SKIPひらかた	久賀谷 洋
自閉症eサービス@京都	岩井 栄一郎

■ 西陣麦酒計画 ビール醸造所 開設資金 ご寄付のお願い

寄付金の趣旨（裏面趣意書）にご賛同くださる皆様からの温かいご支援、ご協力をお願い申し上げます。

個人寄付 1口=1万円より 団体寄付 1口=10万円より

※裏面の寄付金募集要項、寄付金申込書をご確認ください。



西陣麦酒計画 〒542-0062 大阪市中央区上本町西3-3-28 自閉症 e サービス

■ ホームページ : <http://nishijin-beer.com/>

■ email: nishijin.ale.project@gmail.com

■ FAX: 06-4305-3158

■ 寄付金趣意書 ■

時下、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。
さてこの度、自閉症の方の就労支援の一環として、京都においてクラフトビール醸造、開発、販売を目的としたプロジェクト団体である西陣麦酒計画～自閉症の人とともに西陣麦酒を醸造・販売するプロジェクト～を立ち上げる運びとなりました。

西陣麦酒計画の基本理念は、自閉症の人たちが、当たり前を受け入れられ、地域で暮らせる社会を目指しています。ただ、そのためには、就労という視点も必要です。現在、自閉症の方の強みを生かしたり、発揮できる職場環境は増えつつあり、社会制度も徐々にですが、整備されつつあります。

しかし、まだまだ既存の枠組みでは、自閉症の方の違いを認め、強みを発揮できるような就労先は少ないのが現状であります。その中で、自閉症支援に長年関わっているメンバーが集まり、自閉症の方の就労先として、ビール醸造所を作り、開発、製造や販売を目的にした研究会を立ち上げ、日本各地の調査や資金確保など着々と準備を進めてきました。そして、2016年6月より、プロジェクト団体である西陣麦酒計画として、新たに動き出しました。

西陣麦酒計画は、今、必要なことを積極的に実践していくために、自閉症の方が働くビール醸造所を作り、ビール事業を展開していきます。また運営に際しましては、公共性や公益性の高いビジネスモデルを目指し、かつ事業の安定的な継続と新たな発展を目指していく所存でありますが、充実した運営をはかるためには、各方面からご支援を得なければ難しい状況にあります。

寄付金の趣旨にご賛同賜り、皆様からの温かいご支援、ご協力を賜りますように謹んでお願い申し上げます。

2016年7月吉日
西陣麦酒計画
プロジェクトリーダー 中山 清司

■ 寄付金募集要項 ■

- 募集責任者：中山 清司
- 募集目標額：600万円 個人寄付 1口1万円 団体寄付 1口10万円
- 目的：開設費用に充てるため
- 事務局：〒542-0062 大阪開設市中央区上本町西3-3-28 特定非営利活動法人自閉症eサービス事務局
- その他：
 - ・ご寄付いただいた皆様には、個人寄付1口につき、ビール1杯の無料券を進呈いたします。（団体寄付1口10枚の無料券）
 - ・また、ご芳名はホームページ等に掲載させていただきます。（掲載をご希望されない方は、寄付申込書にてご連絡下さい。）
 - ・なお、皆様の個人情報につきましては法令どおり厳正に取扱い、寄付金の取り扱い業務以外には使用いたしません。
- 寄付金振込先：下記が振込み口座となっております。
 - ※なお、寄付金をお振込みいただきましたら、右記「寄付申込書」に必要事項をご記入の上、事務局までFAXをお送りいただくか、メールにてご送信下さいますようお願い申し上げます。

銀行名/支店：京都中央信用金庫/西陣支店
口座番号： 普通 0981735
口座名義： 西陣麦酒計画

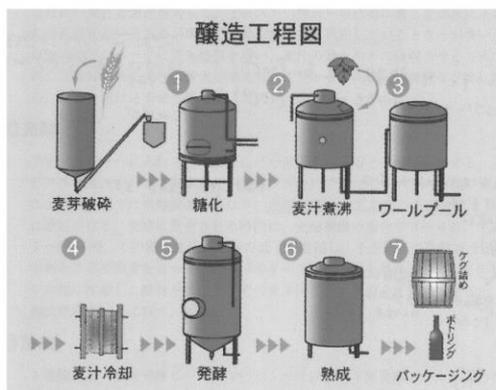
■ 『自閉症の人とともに』

自閉症の方の強みが生かせる働く場のモデル作りを目指します。
働く場のモデルとして何が良いのか検討を重ね小規模麦酒醸造所が適していると判断しました。小規模麦酒醸造所では、醸造から販売までを一元的に担うことができ、それぞれの工程で仕事や雇用の創出が可能となります。例えば、品質が一定になるよう麦芽を粉碎する。誤差なく温度と時間の管理をする。一定量の泡でフタをするようにジョッキにそそぐ。清掃業務をおこなう。瓶詰めする。酒税の台帳に記帳する。注文を受け個別に発送する。販売促進グッズの制作。商品の箱詰め。などです。

自閉症の方が必要としている労働環境を整え、強みを活かして分業し、ひとりひとりが妥協なく協働する事で最高品質の麦酒醸造がおこなえます。

■ 『イギリス伝統の上面発酵へのこだわり』

大手のビール会社が販売する淡色のラガー系ビールも飲みやすく人気ですが、イギリス伝統の上面発酵によってできるエール系などの濃色（茶系色）のビールはコクがあり、香り高く、味わいは格別です。日本酒やワインのように醸造者や気候・材料などによってコク、香り、濃淡が違い、バラエティーに富んだ様々なビールの醸造が可能になります。



小規模醸造所では醸造工程を簡素化するところも少なくないようですが、香りを引き立たせるための工程では雑味も増え、雑味を抑えるための工程では香りが減るかわりにコクが引き立つ、減った香りを最後に足すなど、ひとつひとつの工程には重要な意味があります。不要な工程などなく、西陣麦酒計画では工程を簡素化せずに醸造します。

図 『醸造学基礎セミナーテキストより引用』

■ 『販売イメージ』

醸造免許取得を2017年5月、販売開始を7月に予定。

小規模醸造所では年間6000ℓの麦酒を醸造します。

開所当初は、レストランやビアバーなど主に店舗向けの樽詰め販売と、醸造所併設の試飲スペースでの店頭販売を実施します。

できるだけ早い段階で瓶詰による小売販売も実施したいと考えています。



西陣麦酒計画 〒542-0062 大阪市中央区上本町西3-3-28 自閉症 e サービス

■ ホームページ : <http://nishijin-beer.com/>

■ email : nishijin.ale.project@gmail.com

■ FAX: 06-4305-3158